【重要用語】

□物体
□物質
□混合物
□純粋な物質
□有機物
□無機物
□金属光沢
□展性
□延性
□非金属
□質量
□密度
□水上置換法
□下方置換法
□上方置換法
□酸素
□二酸化炭素

## 1章 さまざまな物質とその見分け方　p.72〜89

□ものを用途や形に着目して区別する場合、そのものを物体という。▶ p.73

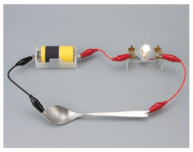
□ものをつくっている材料に着目して区別する場合、その材料を物質という。▶ p.73

□いくつかの物質が混ざり合ってできているもの。▶ p.73

□１種類の物質でできているもの。▶ p.73

□炭素を含む物質（炭素や、炭素を含む二酸化炭素などは除く）。加熱すると、二酸化炭素以外に水も発生することが多い。▶ p.81

金属光沢が出る。


電気をよく通す。（電気伝導性）

展性や延性がある。

熱をよく伝える。

□有機物以外の物質。▶ p.81

□金属を磨くと出る特有の輝き。▶ p.83

□たたくとうすく広がる性質。▶ p.83

□引っ張ると細くのびる性質。▶ p.83

□金属以外の物質。▶ p.83

□上皿てんびんや電子てんびんを使って測定した物質そのものの量のこと。▶ p.84

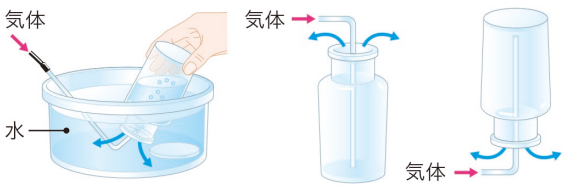
□物質の１立方センチメートル当たりの質量。▶ p.84

$$\text{密度〔g/cm}^3\text{〕} = \frac{\text{物質の質量〔g〕}}{\text{物質の体積〔cm}^3\text{〕}}$$

## 2章 気体の性質　p.90〜99

□水にとけにくい気体を集める方法。▶ p.92

□水にとけやすい気体のうち、密度が空気よりも大きい気体を集める方法。▶ p.92



水上置換法　下方置換法　上方置換法

□水にとけやすい気体のうち、密度が空気よりも小さい気体を集める方法。▶ p.92

□無色でにおいがなく、水にとけにくい。密度が空気よりもわずかに大きい。物質を燃やす性質がある。▶ p.94

□無色でにおいがなく、水に少しとける。密度が空気よりも大きい。石灰水を白くにごらせる性質がある。▶ p.94

□水素
□無色でにおいがなく、水にとけにくい。密度が空気よりも小さく、あらゆる気体の中で最も小さい。燃える性質がある。▶ p.95

□アンモニア
□無色で特有の刺激臭がある。水に非常にとけやすい。密度が空気よりも小さい。▶ p.96

## 3章 水溶液の性質 p.100〜113

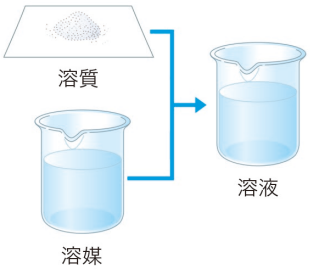
□溶解
□物質が水などの液体にとけて全体が均一になる現象。▶ p.101

□溶質
□液体にとけている物質。▶ p.101

□溶媒
□溶質をとかしている液体。▶ p.101

□溶液
□溶解によってできた液体。▶ p.101

□水溶液
□溶媒が水である溶液。▶ p.101




□質量パーセント濃度
□溶液の濃度を表す方法の一つで、溶液の質量に対する溶質の質量を百分率で表したもの。▶ p.105

$$\text{質量パーセント濃度〔\%〕} = \frac{\text{溶質の質量〔g〕}}{\text{溶液の質量〔g〕}} \times 100$$

□飽和水溶液
□物質が限度までとけている状態の水溶液。▶ p.107

□溶解度
□一定量の水に飽和するまで物質をとかしたとき、とけた物質の質量の値。▶ p.107

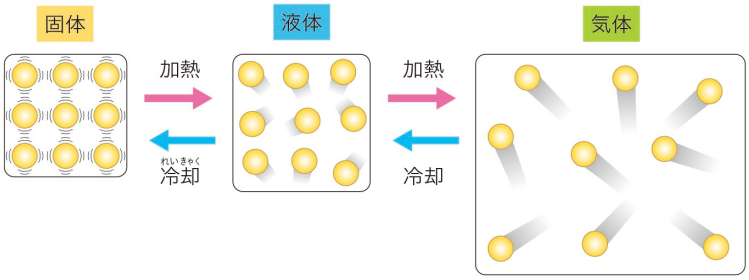
□溶解度曲線
□水の温度と物質の溶解度との関係を表したグラフ。▶ p.107

□結晶
□いくつかの平面で囲まれた規則正しい形の固体。▶ p.111

□再結晶
□固体の物質を水などの溶媒にとかし、その溶液から再び結晶として物質を取り出す方法。▶ p.111

## 4章 物質の状態変化 p.114〜131

□状態変化
□温度が変化すると、それに伴って固体、液体、気体のように、物質の状態が変化すること。▶ p.115




□融点
□物質が固体から液体に状態変化するときの温度。▶ p.118

□沸点
□物質が沸騰して液体から気体に状態変化するときの温度。▶ p.118

□蒸留
□液体の混合物を加熱して沸騰させ、出てくる気体を冷却して再び液体として取り出す方法。▶ p.130